

12
月号

第359号

いっしん

平成26年(2014年)

金光の
教えをともに
語りいて
道の奥処に
進みゆかなむ

甘木親教会
初代親先生み致

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-622895 /FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》



甘木親教会境内にて 布教110年記念大祭参拝 10/26

甘木親教会

布教百十年記念大祭参拝

十月二十五日・二十六日の両日、
甘木親教会布教百十年記念大祭が仕
えられ、二十六日の第二日に、貸し
切り中型バスで参拝させていただきました。

加治木教会信奉者一回で、今日お
かけを受けて元気に信心させていた
だくことができている御礼の参拝を
させていただきます。

今から百十年前、甘木親教会 安武
松太郎初代親先生が「…金光大盛、
お道大繁盛、恩師大繁盛のため深く
尽くし、おそろかに退くことはいた
しませぬ」「人が助からねば死ぬま
で」と不退転の心でご布教されたこ
とに、御礼申しお祝い申し上げるお
祭りであり参拝でした。

この第二日、二十六日は、ご祭典
前に境内で「喜びの集い」が開かれ、
甘木教会と出社教会のバンド隊によ
る「甘木布教讃歌」の合同演奏会が
開かれ、少年少女会・青年会員たち
が練習を重ね、御礼の演奏をさせて
いただくことができありがたいこと
でありました。

甘木親教会布教110年記念大祭参拝…P1~3
教会長教話より…P6~7

矢野政美大人遺稿…P5
教会行事…P6

甘木親教会 布教百十年記念大祭参拝

甘木親教会布教百十年記念大祭参拝は、加治木教会を午前七時前に出発することができ、おかげ蒙らせていただき十年前のようなパンクもなく、甘木親教会に午前九時四十分に着させていただけことができました。

到着後すぐに、新築なった生い立つ保育園前で、すでに始まっていたリハーサルに合流することができました。



午前十時から、お広前正面玄関前の境内へ移動し、最終リハーサルが始まり、続いて本番演奏となりました。コーラス隊の合唱に併せて「甘木布教讃歌」を四番まで演奏させていただきました。

「喜びの集い」の最後はファンファーレが鳴り響き、頭上でクスマ玉が割れ、中から「祝布教百年記念大祭」という垂れ幕が現れました。



「喜びの集い」
甘木親教会布教110年記念大祭
祭典前の「喜びの集い」合同演奏
曲目は「甘木布教讃歌」

願いを立てて

参らせてもらう甘木参拝

有蘭 彰子

十月二十六日、夫と子ども二人家族みんで無事に、甘木親教会の記念祭に参拝させてもらうことができました。



有蘭彰子さん

「甘木親教会の記念祭には家族で必ず参拝させてもらいたい」そう強く思うようになったのは、その前の月にあった少年少女全国大会行きが中止になってからです。

その頃は、三月に産まれた華ちゃんはまだ五ヶ月であり、体調も充分に整っておらず、全国大会に参拝させてもらうことに少し迷いがありました。

ちょうどその時、台風が接近し、全国大会行きが中止になり、少しほっとしました。

ですがその日、なぜか寂しく感じました。小さい頃から毎年続いていた全国大会だったので、お参りしない夏は、残念な気持ちになりました。

そのことを、仲良くさせてもらっている信者さんYさんに、話しました。Yさんは、少年少女全国大会に参拝して御本部で会う約束もしていました。すると「言われました。」

「願いを立てておったね？参拝させてもらうときには、願いを立ててお参りさせてもらうこと。お参りができたときには、また来年もお参りできますようにと、願いを立てること」とお話しくださいました。

それを聞いて私は、我に返りました。

私は願いを立てるところか、子どもの心配をするばかりでした。

そのようなことでしたので、それからは再来月の甘木親教会の記念祭には、家族揃って必ず参拝できますようにと願いを立てさせてもらいました。

毎日はお願いでできなくても、お願いすること、無事、主人の仕事も重ならず、二十六日、家族揃って参拝させてもらうことができました。

甘木親教会ではYさん夫婦ともお会いでき、Yさんもとても喜んでくれました。

子どもが小さく、年子でもあり毎日忙しくなかなかお礼参りもできていませんが、今回家族揃って親教会の記念祭に参拝させてもらい、本当に嬉しかったです。



有蘭隆文さん・彰子さん
華ちゃん・彰真くん

加治木教会

生神金光大神御大祭

仕えられる

菊の香薫る十一月二日、加治木教会では生神金光大神御大祭が仕えられました。

「ご祭典では、教祖様ご生誕二百年、甘木親教会布教百年のお年柄を迎え、お道の働きに御礼申し上げ、お祝い申し上げる祭詞が奏上されました。

ご教話は、志布志教会長 馬渡三郎先生でした。



志布志教会長 馬渡三郎先生

「若い頃から、音楽家を志して勉強を進める中で様々な多くの体験をさせてもらった。その当時はわからなかったが、出くわす問題を通し少しずつ親の祈りや神様の願いをわか

らせていただいていた。お道の教師におかげを頂くまでのことを振り返ってみると、神様のなされることには、ひとつもムダなことはないと思つ」と元気に感慨深くお話し下さいました。



お直会では、バンド隊による演奏を披露させていただきました。

甘木親教会記念祭「喜びの集い」で演奏した「甘木布教讃歌」と「さんぽ」を演奏させていただきました。(この曲の作曲者は、馬渡三郎先生)

吉屋さんと小屋敷さんが舞踊を披露されました。



バンド演奏を披露させていただきました。…バンドの練習活動を通し信心の成長がはかられていくことが願いです。



吉屋照子さん 小屋敷康子さんにより舞踊の披露がありました

思いやりの心

(矢野政美大人 遺稿昭和54年11月)

現在の世の中は、自分のことについては神経をとがらす人も、他人のことになると、

一向に気にかけないという人が、だんだん増えておるように思えてなりません。

教祖の神様は『人のみが大事かわが身が大事か人もわが身も皆人』と、また『天が下に他人ということとはなきものぞ』と、み教えになってあります。

私どもは人のことを自分のこととして受け止めることができないうまでも、せめて身内のこととして受け止めて、その人のことを一心に祈らせていただきたいと思います。

私も十七日間の入院生活を体験させていただきました。あまりにもまわりにお気の毒な人の多いのに気付かせていただきました。

そうして、今日まで人を思う心のたりなかったことを反省させていた



だき、申し訳ないことであつたとしみじみ思わせていただきました。

これからは、一心に人様のことを祈り願い続けさせていただかねばと思わせていただき、人の助かるお役に立たせていただきたいと思わせていただいております。

またの教えにも「人を助けて我が身助かれ」と仰せになってありますように、親神様の一番の願いは、人が助かることにあるわけであります。その御用に立たせていただくことは、この世で一番素晴らしい尊いことだと思わせていただきます。

信心は生活

(矢野政美大人 遺稿昭和54年8月)

み教えに「日に日に生きるが信心なり」と仰せられてありますが、信心は教会にお参りすることであり、生活は信心とは関係なく、勝手な生き方をすればよいというのではありません。

生活が信心に基づいた生活となり、信心がそのまま生活にならねばならないのであります。

生活とは各人の行いであり生き方であります。その日々の行いが親神様のご気感にかなったことになっておるか、反対に親神様のご気感にかなわないかによって、大きな開きが起きてまいります。

「天地金の神といえれば天地ひと目にみておるぞ」と仰せられておりますように、親神様は私どもの身体のこととはもちろんのこと、心の中まで見抜き見通してあらせられます。

たとえば、農家の人が信心のある人とならないとは、畦ひとつで稲のときばえが違う。一方は豊作なのに、片方は凶作になるという例はたくさんあります。

それは天地の恩のわかった人とわからない人の違いからくる結果といえます。

神様は「あれはあれ、これはこれ」とちゃんと見ておられるのでありますから、いつも「神様と私」のところで実意をもって、神様の一番願っておられる人の助かる御用に、その行いをもってお役に立たせていただきたいものと祈らせていただきます。

御礼を土台に

《教会長教話より》

「喜び心がおかげを受ける器」と教えられています。が、実際に悩むことや解決したいトラブルに遭遇したときに、すぐに「喜び心」が出てくるでしょうか。

そのようなときに「喜び心」が出てくるのができたなら、不安や心配に囚われることなく、心が軽く明るくなり前途に見通しがつくようなものでありましょう。

しかし、信心の稽古もせずして、大変なことに遭遇して「喜び心」がすぐに出てきて心が救われるというような△シの良い話はありません。

やはり助かることが即座にできる信心には、どんなお稽古ことやスポーツにも必要なように、稽古や練習が必要です。

いつでもどこでもすぐに、救われること助かることができるだけの信心の稽古を何も無い、常日頃から努めて準備し、身に付けておきたいものです。

この「喜び心」即ちお礼・感謝の

心が続くことの大切さについて、

「今日まで頂いてきたおかげを、過分なお恵みと感謝して、このような信心では相すまぬと、お礼お詫びをさせてください」と、神様は、大急ぎで、またおかげを持ってきて下さる。これは相すみませぬと、大急ぎで、なおお礼とお詫びの信心をさせていたっていると、こんどは自転車で大みかげを持ってきて下さる。

ああ、またこのような大みかげを、ろくろく信心もできないのにと、こんどは自転車に乗ったつもりで、お礼とお詫びの信心をさせていたっていると、神様は、自転車で大みかげを持ってきてくださる。

…自動車で…なおお礼とお詫びの信心をさせていたっていると、こんどは、飛行機でおかげを持ってきて下さる。

しかるに、自分はこのように信心しているのに、なかなかおかげを頂けぬとか、また、このようになつまらぬことになったとかいうような、不足不平の心が出ると、神様はピタリと大みかげの芽を止めてしまわれる」

〔安武松太郎師〕239～234頁

と教えられ「お礼とお詫びの信心」がいつも続いていくことの大切さを教えてあります。

四代金光様は、いつも「お礼が土台」「お礼が先」と教えられ、

「よいことの方を見てお礼を申していく。ありがたいことを見つけて、お礼を申していく。そうしないで、悪い悪いと言っただんでは、よいように人生はわたっていけない」

『生きる力の贈りもの』30頁

と教えられています。

さらに、病気で心配のな中にある方に「心配ができることにお礼を申しなさい」とも教えられています。

このようなことを御歌に詠まれて

あります。

「ここまでできたと言ふべきをこれしかできぬと言つて嘆くか」

「気にすればきりのなきこと気にしすぎとりこになるなとまたしても思ふ」

「なげく心 与えられおりとらわれてはならぬ心も 与へられており」

「世話になり 支えられぬる謝しおれば 心ぼそさがうすらぎゆくも」



四代金光様
(金光鑑太郎様)

「謝」ということの大切さが教えられています。

「さらに、このようなことが頭でわかっている、心では少しも喜ばない・喜び続けていけないということもあります。」

そのようなときには、教会に参拝して「お取次ぎを願う」ことでしよう。きつと神様の祈りのこもった教えや言葉が大きな指針となり、喜びの心へいざなうヒントや道標（みちしるべ）となるでしょう。

あしあと

加治木教会行事記録

- 11月
- 1 (土) 月例祭・御用奉仕 10時半
- 2 (日) ●加治木教会御大祭 11時
- 6 (木) 連合会執行部会 10時半
- 7 (金) 斎掃御用 10時
- 8 (土) ●奉神金光月例祭 10時半
- 併せて 立教記念祭・新穀感謝祭
- 9 (日) 西鹿兒島教会 御大祭 12時
- 新田原教会 御大祭 (教区)
- 16 (日) 鹿兒島教会御大祭 11時
- 20 (木) 斎掃御用 10時
- 21 (金) ●月例祭・共励会 13時半
- 龍笛練習
- 23 (日) 依積田教会 記念祭 11時
- 24 (祝) 大口教会御大祭 12時
- 連合会信徒部役員会 鹿兒島市
- 30 (日) 斎掃御用 10時
- 吉屋家霊祭(宅祭)

ご霊神様の おまじり

十二月

- 吉屋正憲 之霊神(2日) 平成11年
- 本中野キン 之霊神(7日) 昭和10年
- 大山キク 之霊神(7日) 平成7年
- 小屋敷シゲ 之霊神(7日) 平成8年
- 柳園市次郎 之霊神(8日) 昭和25年
- 本中野重盛 之霊神(8日) 昭和39年
- 大山叶人之霊神(14日)
- 徳永盛常 之霊神(18日) 平成2年
- 大山スエケサ 之霊神(24日) 昭和51年
- 大山きよ子 之霊神(28日) 昭和43年
- 吉屋キミ 之霊神(30日) 平成22年
- 前田キミ之霊神 昭和43年



「先祖の霊神様の、現世・幽冥かくりよでのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。」

十二月三日(水)

出発午前七時半 帰着午後六時頃の予定

甘木親教会

生神金光大神御大祭参拝

十二月二十二日(月)十六時より

少年少女会・信徒会

歳末感謝。パーティー

会費：大人一〇〇〇円・中高生七〇〇円・小人四〇〇円

プレゼント交歓会…一人、二〇〇〜三〇〇円相当の
プレゼントを用意して下さい(新品不用品可)

十二月三十日(火)十三時半より

加治木教会

越年祭 奉行

越年祭、御礼・お願いの記入用紙を
ご記入の上、御結界にお届け下さい。

一月一日(祝) 正午より

加治木教会

元日祭 奉行

「祭典・教話後、福引。」

一月五日〜二月四日

寒中一斉信行

ご祈念・研修：午前五時二十分・午前十時
ご祈念のみ：午後四時・午後九時

教会行事

12月

- 1 (月) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (水) 甘木親教会御大祭 第一日
- 4 (木) 甘木親教会御大祭 第二日
- 9 (火) 斎掃御用 10時
- 10 (水) ●生神金光 月例祭 10時半
大神様
- 11 (木) 連布教協議会 鹿児島 10時半
教会にて
- 14 (日) 御本部布教功労者報徳祭
- 21 (日) 斎掃御用 10時
- 22 (月) ●月例祭・共励会 13時半
- 29 (月) 斎掃御用 10時
- 30 (火) ●越年祭 13時半

《未定行事》

※若婦人会・青年会

加治木教会 バンド練習会

〈毎週水曜 午後7時半より〉

十二月二十二日の、感謝パーティーで
演奏を披露させていただきました。
それぞれの行事に、今日おかげを
蒙らせていただいている御礼の心
を現わさせていただきますましう。

平成二十七年

1月

- 1 (祝) ●元日祭 正午
- 3 (土) 甘木親教会年頭参拝
- 9 (金) 斎掃御用 10時
- 10 (土) ●生神金光 月例祭 10時半
大神様
- 併せて 成人感謝祭
- 11 (日) 少年少女会「鏡開き」10時半
- 15 (木) 若婦人会 13時半
- 18 (日) 西鹿児島教会報徳祭 12時
- 朝参拝日 6時
- 21 (水) 斎掃御用 10時半
- 22 (木) ●月例祭・共励会 13時半
- 青年会 20時
- 25 (日) 連合会定期総会(鹿児島 教会にて) 10時
- 31 (土) 斎掃御用 10時半

